

学年	教科等	単元名	日時
第5学年	音楽科	アンサンブルのみりよく	平成29年6月19日(月)5校時
本実践の主張	本実践では、歌唱の活動において、主な旋律と副次的な旋律のかかわりを図形譜で表す活動をとおして、旋律の役割に合った表現の工夫について、自分の思いや意図をもつことをねらっている。図形譜(線)で表すことで、主な旋律と副次的な旋律のかかわりを視覚的に捉え、それぞれの声部の役割について考えられるようにする。そして、その役割に合った表現の工夫について、自分なりの思いや意図がもてるようにする。		

子どもが気づき、感じて、表現につなげるための工夫

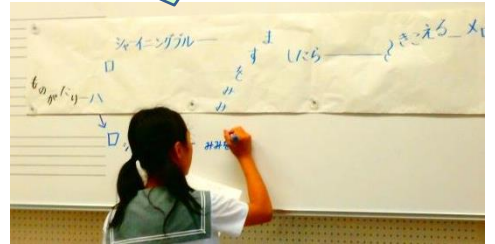


主な旋律と副次的な旋律の流れやかかわりを、まず歌唱しながら、手で確認する。

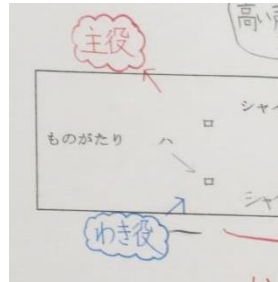
ここは下の旋律が追いかけているみたいだね。



個人で考えた後、全体で確認する。図形譜で表して視覚的にかかわりを捉える。

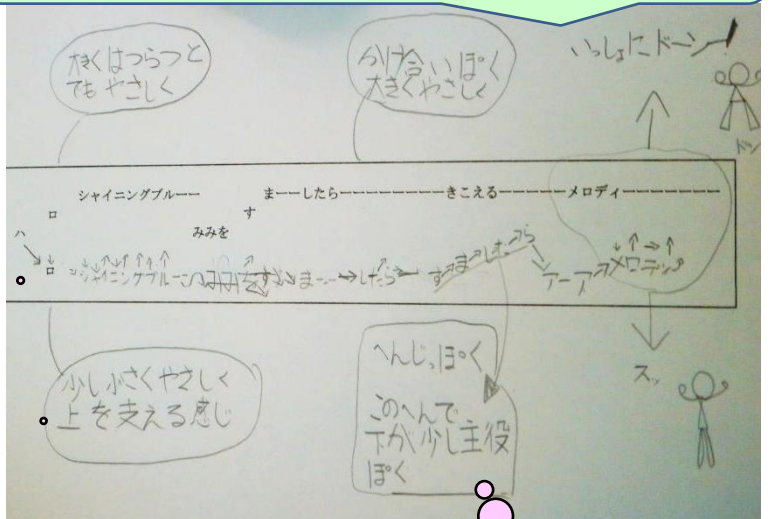


上の旋律は主役で下はわき役です。



【子どもの学習プリント】

主な旋律と副次的な旋律の役割を確認した後、それを元にそれぞれの声部をどのように歌えばよいか、自分なりの思いや意図をもつ。



上の旋律は、大きくはつらつと歌いたいな。でも優しく歌うといいね。

下は、少し小さい声で、上を優しく支える感じがいいね。

自分たちの思いや意図を、実際に歌唱して表現してみる。

下は人数を減らしてもいいかな・・・？



かけ合いのところは、返事っぽく歌うといいね。下は、少し主役みたいになるね。

→ 強弱の工夫…実際に歌唱しながら、よりよい音楽表現をめざしていく。

主な旋律と副次的な旋律の役割に気づき、それにふさわしい表現の工夫を考えさせるための手立てとして図形譜を用いたことは、視覚的に捉える手段としては効果があった。しかし、もっと歌唱や合唱を取り入れ、音楽を感じながら、それぞれの役割や表現の工夫を考えさせていくことが大切だと感じた。今後は、もっと歌唱や合唱の時間を確保し、試行錯誤させていく過程を大切に組み込んでいきたい。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)  
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○ 指導計画（7時間）

(1) 声の種類を知り、様々な形態による合唱の響きの特徴を感じ取って聴く。_____	1時間
(2) 「ハロー・シャイニングブルー」の表現の工夫をする。_____	4時間
・ 曲全体の感じをつかむ。 . . . . . 1	
・ 二部合唱の表現の工夫を考える。 . . . . . 2（本時 1/2）	
・ 前半部分の表現の工夫を考える。 . . . . . 1	
(3) 全体で二部合唱をする。_____	1時間
(4) 音の重なりや響きを味わいながら、オーケストラの音楽を聴く。_____	1時間

○ 本時の目標

主な旋律と副次的な旋律の役割に合った表現の工夫を考え、自分の思いや意図をもつことができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ハロー・シャイニングブルー」の歌唱</li> <li>○ 本時の学習のめあて</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">上のパートと下のパートの役割を考えて、それに合った歌い方を工夫しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 休符や音符の長さ、リズムや音程等に気を付けながら歌わせる。</li> </ul>
<p>2 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主な旋律と副次的な旋律の音の重なり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二部合唱の部分に注目させ、本時は主な旋律と副次的な旋律の音の重なりに気を付けて、それにふさわしい表現を工夫することを確認することで、学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>
<p>3 主な旋律と副次的な旋律の音の重なりに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主な旋律の図形譜（※）</li> <li>○ 副次的な旋律の図形譜</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主な旋律や副次的な旋律を歌唱しながら、旋律の流れを図形譜で表し、音の重なりに気付かせる。手順は以下のようにする。             <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な旋律の流れを手で表現する。（全体）</li> <li>・ 主な旋律の図形譜を確認する。（全体）</li> <li>・ 副次的な旋律の流れを手で表現する。（全体）</li> <li>・ 副次的な旋律を図形譜で表す。（個人）</li> <li>・ 副次的な旋律の図形譜を確認する。（全体）</li> </ul> </div> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気付いたことの確認</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律が一緒のところと、分かれているところがあるね。</li> <li>・ 旋律が追いかけてこになっているところがあるね。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主な旋律と副次的な旋律のかかわりに着目させることで、2パターンの重なり方があることに気付けるようにする。</li> </ul>
<p>4 二部合唱をしながら、表現の工夫について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音の重なりや、それぞれの声部の役割を考えるよう促すことで、表現の工夫について自分なりの思いや意図がもてるようにする。その際、実際に考えた工夫を歌唱させることで、よりよい表現をめざして試行錯誤できるようにする。</li> <li>○ 考えた工夫を全体で話し合わせることで、よりよい音楽表現をめざせるようにする。</li> </ul>
<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽曲の歌唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体で歌唱し、よかったところを話し合わせることで、次時への学習の意欲付けができるようにする。</li> </ul>

（※）音楽を、五線譜ではなく自由に図形（線、絵、文字等）で表した楽譜のこと。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

図形譜を見ると、「『すましたら』のところからは、旋律が追いかけてこになっているから、旋律を助けるように歌いたいな。」

【音楽表現の創意工夫】

